

## 保育士養成における病児保育所との連携

### —学生実習、見学の試み—

田邊ますみ  
(千葉明德短期大学)

#### 1 はじめに

エンゼルプランの中に多様な保育サービスの充実の一つとして、乳幼児健康支援ダイサービス事業が組み込まれた。この事業は子育てと就労の両方を支援する目的で、病気の回復期にある乳幼児を一時的に病児保育所でケアするものである。今や、病児保育所は全国に300箇所あまりに増えてきている。

病児保育は、病児保育所で行われている保育と、長期間入院を余儀なくされている子どもへの保育の二つのジャンルが確立しつつある。ここでは病児保育所での病児保育を取り上げ、保育者の養成に活用してみたいと思った。

病児保育は、少数、異年齢の個別保育が行われる。また、保育と看護が重なり合い、交差しながら子どもの生活の援助をする。特に医療機関併設型病児保育所では、命を守る事を第一義とする医療とのドッキングがある。医師、看護師、栄養師、薬剤師、ケースワーカーと他職種と連携して保育を行う。保育看護の重なりの中、何が特に保育者として求められるか、探求する場となろう。保育者養成校と病児保育の現場を結び、今後病児保育の保育内容を検討するためにも、学生実習、見学を考えた。

#### 2 授業概要

##### 平成14年度病児保育実習について

千葉市内の病児保育所は、4カ所あり、まなこどもクリニックポピンズルームにて学生の実習を引き受けてもらった。

##### ① 実習事前指導 学習項目

保育について： 保育所種別、病児の生活、遊び、

異年齢保育、個別保育

2対1の保育基準、保育記録

医療について： 小児に多い疾患、観察ポイント、投薬、感染防止、医療処置、予防接種、医師の指示

看護について： 看護プロセス、ニーズのアセスメント、看護過程の評価、処置介助  
看護記録(POSシステム)、役割分担

#### ② 実習内容

目的：病児保育を体験し、病気の子どもへの生活援助を考える。

対象：2年生 希望者 保育所幼稚園実習体験者  
8名 2名一組で4日間体験実習する。

期間：

第1期 8月19日～23日 9月9日～13日

病児保育所の保育を見て、環境に自分が慣れる。子どもの一日の流れと、健康観察ポイント、個別の状況に合わせた関わり、遊びの工夫がわかる。

第2期 9月17日～20日 9月24日～27日

実際に子どもと関わり、状態に応じて病児に何が大切か考えてみる。

#### ③ 実習事後指導

病児保育所の医師、看護師、保育士からのフィードバック、実習録のチェックをしてもらう。

千葉市図書館で、疾患とその看護についての文献検索をして振り返る。学内で、学生と教員でのミーティングをし、他の学生の体験を共有する。

学生が、医療保育学会関東ブロック勉強会、全国病児保育協議会研修会に参加し、保育士の専門性について知識を広めた。

#### ④ 結果と課題

学生が病気の子どもをケアする体験は概ね初めてであり、医療機関の中で、医療や看護と協力して子どもを看取っていくことは緊張を要した。しかし、一対一で子どもと一日ゆったりと過ごす病児保育所の環境に、学生はすぐ慣れた。担当保育士から、子どもとの関わりはそつない、積極的であるという評価を受けた。

その経験を元に、他の保育所併設型病後児保育所、乳児院型病児保育所を見学して、構造上の相違、コンセプトの違いを学んだ。一口に病児保育室といっても、さまざまなタイプがあり、一般にも情報が浸透していない。また、医療保育、病児保育の研修会に参加して、知見を深めるとともに、「保育士としての本来の仕事はなんであるか」考える機会にしたかった。他職種との連携の中、保育士の専

門性に迫りたいと思ったが、学生が自分を振り返り、保育を変容させる深い考察に至らなかった。

#### 平成15年度病児保育実習について

千葉市内の病児保育所3件を見学し、そのうち2件で学生の実習をさせてもらう。

##### ① 実習事前指導 保育実習準備

都内の医療機関併設型病児保育所2箇所、乳児院型病児保育所、看護師養成校、図書館を利用して病児保育を知る。

病児保育事前訪問時、に前年度の実習を踏まえて、スタッフ側から事前準備のアドバイスを受ける。

学生自身の予防接種の確認、インフルエンザ予防接種を受ける。

##### ② 実習内容

目的：病児保育所での保育を体験する。

個別保育、隔離室での保育、乳児保育を見なおしながら病児のケア体験する。

対象：2年生 保育所幼稚園実習体験者6名

1名ずつ2箇所の病児保育の1日体験

期間：11月21日～12月22日

病児保育所の保育を1日体験し、健康観察ポイント

と個別の状況に合わせた関わり、遊びの工夫がわかる。

##### ③ 実習事後指導

病児保育所の医師、看護師、保育士からのアドバイスを受ける。学内で、学生と教員で病児保育の振り返りをする。施設に併設された病児保育所に学生が興味をもったので、乳児院、病院内保育所、児童養護施設併設型病児保育所の見学を行う。

##### ④ 結果と課題

今年度は冬季の実習になったため、病児は特にロタウイルス等による感冒様症状を呈するものが、多かった。現場で手洗いを徹底してもらったが、学生はかなり高率で感染し、次の実習を休む結果になった。

冬季の実習は学生の健康管理の問題を生じ、また就職試験が多くある時期でなので、検討を要する。

病児保育所の利用は未満児が多く、乳児保育の振り返りをしたり、小児保健から実際入眠時の呼吸測定を実施したり、また医療乳児院への見学のために、障害児への援助を考えたのは、保育のレパートリーが増えたのではないか。

1年次の施設実習で自分が体験しなかった種別

の施設について、学生はほとんど実情を知らなかった。病児保育は、色々な事業を展開しているので可能になっているところが多い。特に乳児院の特性から病児保育を付帯し、児童養護もある施設の見学は、学生の知見を広めるのに役だった。

### 3 考察

#### ① 実習期間

季節は冬よりも夏の方が望ましい。実習期間は少ないので、今後年間を通しての実習を考えている。

#### ② 事前指導

学生自身が現場で感染源にならないように、健康管理に注意し、事前の予防接種の確認と準備が必要になる。

学生が見通しを持って、解らないことを聞きながら効果的な実習ができるように、教員自身が病児保育現場多く足を運ぶ必要がある。

病児保育の概論部分をどう学生と分かちうか、システムを持つ必要がある。看護について学生のイメージは薄く、看護の対応は現場で指導された。

#### ③ 実習の目的

病児保育の特色の何を使うか、個別の保育か、保育士としての専門性か、他職種との連携か、多様な保育形態を学ぶのか、学生の状況とニーズとともに考えたい。小児病棟内院内保育も同様の特色があり、実習の場として検討したい。

#### ④ 保育内容

病児保育は季節により変動が大きく、子どもがいない日もある。その際にも保育士として、環境整備や、保育の準備などに携われた。また看護師の仕事を見る機会になった。

学生は概ね個別保育はでき、一人にゆっくり関わる保育に満足していたが、そこで終わり他を考える余裕はなかった。実習期間が短いためでもある。

保育については、現場でも試行錯誤しているので、学生と一緒に考えるチャンスになる。今年度は2箇所の実習で、違う保育を体験し深める機会になった。病児保育に携わるスタッフのための研修会を開催したが、病児保育内容の検討を現場と連携して行きたいと思う。

### 4 おわりに

保育は子どもの命を預かっている。それを如実に感じる病児保育所で学生は緊張感を持って保育した。健康なときも病気のときも子どもに保育の保証をすることを、学生や現場と共有して行きたいと考えている。